

# 「ハレとケ」 通信

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しみ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

## 物語のある建築 (17)

「—想いをかたちに—」

(株)若松屋化粧品部

新築工事(2)

「ハレとケ」のある暮らしかた

【お彼岸 / 春分の日】

中津万象園「花の歳時記」

【春を呼ぶ鶏足嶺周辺のスイセン】



平成 24 年 12 月発行

測量の際に見つけたロウバイの花。  
梅よりも清楚な香りが、  
厳しい冬の寒さに  
合うように思いました。

「—想いをかたちにし—

## (株)若松屋化粧品部新築工事(2)

前回、店主・美和さんの想いを「紹介しました『(株)若松屋化粧品部新築工事』。でも、それはまだ、目に見えるかたちにはなってはいないものでした。

その『目には見えないもの』を、建物を通じて表現するのが、設計デザインのお仕事と言えますが、では、この案件では、どうやって、どんなかたちで、設計者は『目に見えないもの』としていったのでしょうか？

それを知るために、今回は設計デザインに係わったお二人、アールデザインの村上良枝さん、(株)創芸の久保勇人さんから、お話をうかがいました。

『建築物ができてあがるまでのプロセスを共有することで、建設に携わることの幸せをお互に分け合える』をコンセプトで特集してきた『物語のある建築』。その醍醐味とも言えるお二人のお話です。

## アールデザイン 村上良枝

2012年12月6日、miwa cosmetic salon若松屋がオープンしました。

化粧品販売が主ではありますが、それにとらわれずに、女性が笑顔になれる場所を提供したいというオーナー様の芯となる考えに添うような建物になることが、私たちの一番大きなミッションだったと思います。

(以下、オーナー様を美和さんと称します)

計画の最初段階から三ヶ月間くらいは、既存の商品やお客様についてはもちろんですが、化粧品販売に附属させるそれ以外の商品やサービスや建物内部スペースの活用方法について、打ち合わせに美和さんと色々な意見や参考事例などについて出し合い、広げたり絞ったりしながら進めていきました。

その打合せをする中で、美和さんから新しく発生する案も沢山あり、消えていく案もあり：けれど、ずっと変わらず何度出てくるキーワードがあり

ました。

『女性の笑顔』『おもてなし』『変化のある日々』『簡単なメンテナンスは自分でする』『高齢の方にも優しい』でした。これらは、完成までどこかの場面で変わらず出てきたキーワードたちです。

建物の最初のプランをする時に、私がいまず考えたのは…

美和さんに2度目にお会いした時に(2011年6月1日、「香川県の丸亀のヨコ美和さんという人がいる事を知ってもらおう」と一緒にお話した事でした。

そのことから、店舗建物の扉を開けて“美和さんに会う”というこの出会いの瞬間を楽しめる建物への入り方にしたと考えました。その考えをプランの中に盛り込みました！

山奥の奥の奥に桃源郷が…長いトンネルを抜けると雪国であった…のような…。

長めのアプローチを通って奥まで進みドアを開けると…そこには笑顔が溢れていた…という出会いの瞬間になればと(笑)

そしてプランは、前面道路側にカフェスペースを配置し、建物の奥を化粧品やエステスペースにし、この最初の出会いの場となる扉を建物の中ほどに配置し、入口までのアプローチを長くとりました。

化粧品スペースを前面道路側・カフェスペースを奥へ配置の案でしたが、あくまでも「女性が笑顔になれる場所」であって、単純に化粧品店ではないということにこだわり、化粧品スペースは奥へ配置しました。

建物が完成し、道からカフェでの楽しい談話の様子から見え、外へも温かい雰囲気伝わってくるのを感じて、この配置で良かったなあと思いました。

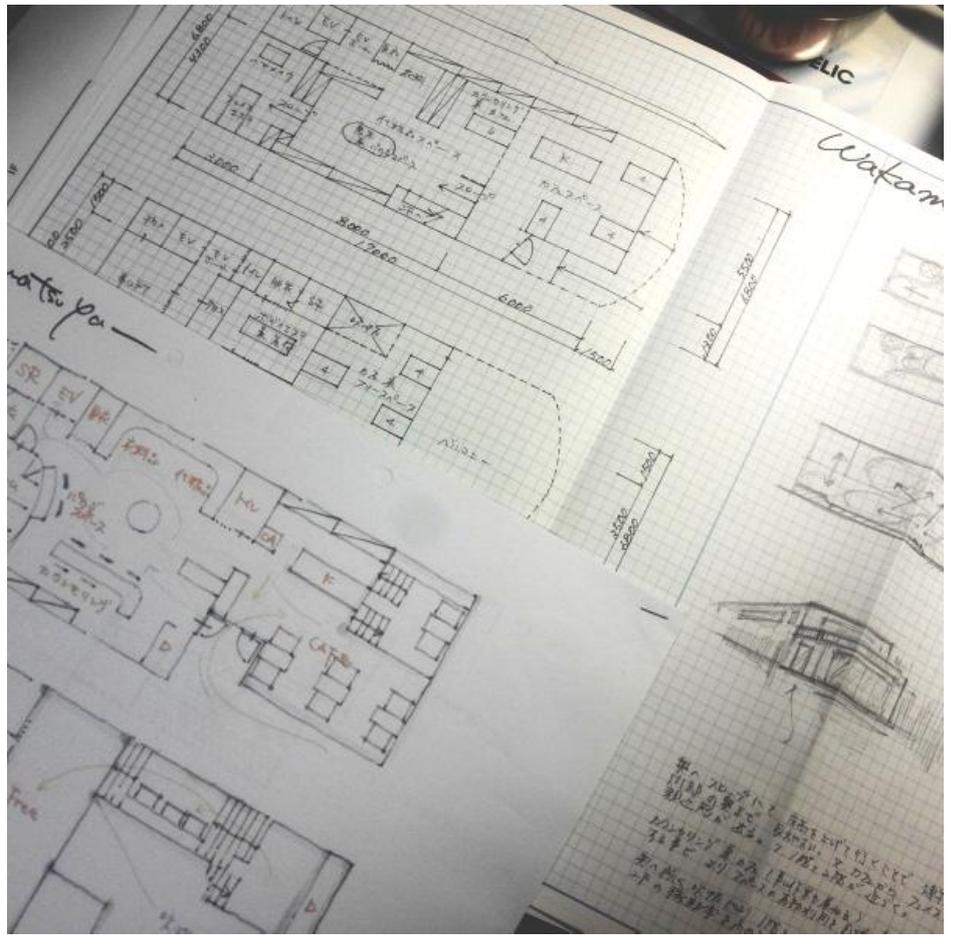
建物の仕様やデザインについては、美和さんの『簡単なメンテナンスは自分でする』という考えに添うように、できるだけ女性にもメンテナンスがしやすい事、温かみのある雰囲気である事に配慮しました。

建物の仕様の中で重要視したのは、建物の外部の仕上げと内部の床です。



↑村上良枝さん。当社の女子社員が彼女の第一印象を称して曰く…「いやにもおしやれなお家を作ってくれそう…」

まず建物外部の仕上げについては、ス  
イス漆喰のカルクウォールを採用しまし  
た。塗り壁ですのでヒビ割れなどのリス  
クもありますが、一番のメリットは汚  
れの浄化力が高いことです。関西では使  
われている物件が多い建材ですが香川  
県内ではまだ少ない中、実際に施工後  
7年程度施工後1年程度の物件も実際  
に見ていただき、ヒビ割れのリスクも実



↑若松屋 計画家。手書きの図面は、これだけ見ても美しい。

際の施工物件を見ながら説明させてい  
ただきました。汚れの浄化力が高いた  
め、女性での外部の清掃の負担が少なく、  
他の塗材などに比べても塗り替えなど  
のメンテナンス頻度がかかなり低いと考  
えられます。  
ふたつめは、建物内部の床材ですが、  
最終採用は無垢のウォールナット材オ  
イル仕上げになっています。計画当初、

無垢床材は決めていましたが、イペかア  
ピトンかなラか…と堅く磨耗性が高い  
樹種でオイル仕上げをした時に雰囲気  
がよいものを検討してすすめていまし  
た。最終、喜田木材様から予算にあう  
ウォールナットと栗を提案していただき、  
深い色合いのウォールナットの採用とな  
りました。

やはり床材は、温かみ柔らかみ深み…  
無垢の床材を採用して良かったと思いま  
す。

美和さんは、化粧品などについてはも  
ちろんですが、定休日の自身のお休み  
には、お菓子を焼きパンを焼き…と来  
店のお客様に喜んでいただけますよう  
にと、常に自身笑顔で、女性が笑顔

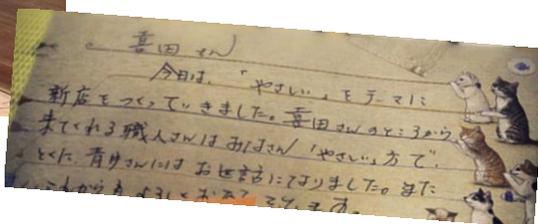


—建築現場風景から—



↑フローリング貼りに挑戦する美和さん

今回の工事中、美和さんならではの柔ら  
かな姿勢で、積極的に建築現場での作業  
にかかわってきた。  
中でも大工棟梁との信頼関係は強く、そ  
の様子は美和さんの日々の facebook や  
ブログでも紹介されており、竣工時には  
美和さんから、棟梁の所属する会社へお  
礼状が届いたという。



棟梁の所属する会社（喜田建材）へ届いた、  
美和さんからのお礼のお手紙。→

になれる場所”を提供できるように頑  
張っていらつしやいます\*  
小さな香川県の小さな丸亀の miwa  
Cosmetics Salon 若松屋ですが、笑  
顔を楽しみに\*楽しみに\*是非お立ち  
寄りくださいませ\*  
(文・写真/アールデザイン 村上良枝)

# (株)創芸 久保勇人

敷地は、丸亀城の西北の古い商家が残る密集地の旧琴平街道に面した場所にあります。東側に前面道路、西・東側に建物があり南側は駐車場という構成で、その駐車場を挟み、軒行くと元の店舗位置若松屋本店となります。東西方向に長い敷地であり高低差は50cmを超えていました。このような建築環境を生かし、化粧品中心に販売するという業種と地域との関連性を模索しながらクライアントの美和さんと時間を掛けながら計画を進めていきました。

このショップは1階が、化粧品・メイクレッスン・エステ・衣類・雑貨・カフェ。そして



↑久保勇人さん。私自身、この久保先生とのお付き合いはもう7~8年と長く、知識と好奇心が豊かな優しい人柄で、「困ったときの久保先生」というくらい、頼りにしている。



↑miwa 二階のバルコニー。ここで、色んなイベントを企画していく予定だそう。

2階はフリースペース・スタッフルーム・ストックルーム・大型バルコニーという構成で、女性が美しくなるための手法をライフスタイル全般に提案が出来るようになっています。

「建物を考え判断する時に、女子の気持ちになって『良いなあ〜』と思うものにしてほしい」との希望があり、この言葉が建築計画からディテールまでを検討してゆく時に大きな指針となりました。

エントランス付近には、オリーブの木に面した、ゆったりした駐車・駐輪スペースが、2階の持ち出されたバルコニーの下、アールのついた白い壁に導かれ、3連の

↑女性らしい、かわゆるサイン。



↑バルコニーにも丸形のモチーフ。

大きなガラス窓越しに内部の楽しそうな風景を見ながら、緩やかな勾配の豆ジャリ洗い出し仕上げの少し長めのスロープを上がると、ファイヤーテーパーガラス(耐熱強化ガラス)で出来たエントランスドアへとスムーズに繋がる...という仕掛けです。

ファサードを計画するにあたり、商業空間に快適な光を内部に取り入れることを配慮して、「開きながら閉じる」ということを考えながら、防火性能が要求される開口部やバルコニーの設計を行いました。

特に2階の広いバルコニーは、フリースペースと連動してイベントを行うことができ、4つの丸窓や少し高い壁手すり越しに、その賑わいの一部、気配が、旧琴平街道界隈に伝わるという仕組になっています。そのため、バルコニーの内側では、

白いアールの壁に心地よく遮蔽された空間に囲まれて、イベントを行うことが可能になっています。その高さについては、近隣の窓の關係に配慮しながら、美和さんと共に丁寧に寸法決定を行いました。因みにこのバルコニーは、一部屋根の掛かった部分もあり、その壁面にタープを張れば雨天での利用も可能です。

次に構造計画では、これからの商業施設の流れや、建築物のサイズ、コストを配慮して木造を選択しました。2階部分の多目的な利用に伴う積載荷重を考慮して、市場に流通している400mm以下の集成材を効果的に用いてスパンを確保し、剛床を構成して床の強度を確保。構造強度による2階フリースペースの音の問題を解消するように、剛床の上に遮音シートを敷設しました。また、建築基準法による敷地内通路の幅1.5mが避

難方向に要求されるため、バルコニー南側のエントランス上部では、跳ね梁を連続的に用いて1.2m幅の長いバルコニーの持ち出しを造っています。このバルコニーの持ち出しは大きな庇の役割も果たし、エントランス廻りでは濡れずに行動することが出来ます。

構造的に梁成の高いものを利用するので、2階のフリースペース部分の懐が、どうしても厚くなります。その厚い懐を利用して60cmの円形のディスプレイスペースをうけ所設けました。このディスプレイスペースは、気配が繋がるといふことと、外部からの光が2階の室内に落ち、その光が1階の空間に落ちる光井戸の役割も果たしています。下から見上げると天井にアクリルがフラットに近く施工されていますが、円形のディスプレイスペースの模様替えは、大工さんのアイディアで天井の懐から容易に行えることになりました。現在は、かわいいハートのディスプレイが行われています。そして、写真でもお気づきになるかもしれませんが、この商業施設では、美和



さんの好みのかたちということで、曲線や円形をデザインボキャブラリーとして積極的に使用しています。

状の大型サインであれば、ベースとなるコンクリート部分は1階の平面図をかたち取っており、それにレイヤーが重なるがごとく、透明アクリル板にCI・施

今回大切にしたのは、かたちをデザインする

時に、「物語をつくる(意味付けを行う)」こと。例えば、駐車スペース横の不思議なお洒落な形の不思議なお洒落な形

設構成・インフォメーション・クレド(信条)を描いています。

「かたちに込められた物語を話すことにより、コミュニケーションが生まれる。豊かなコミュニケーションが、地域に繋がり、他の商業施設の元気なネットワークを生み出す。」

この商業施設「miwa」は、街に活気をしなやかに取り戻す新しい起點施設になって行くのだと思っています。

(文・写真/株式会社 創芸 久保勇人)



↑女性らしさ、やさしさ、かわいらしさ。そして、欠かせないのは、お店としての機能と使いやすさ。それらを兼ね備えるために、さまざまな仕掛けが施されている。



# この季節を暮らす。(17) 【お彼岸／春分の日】

日本には年に2回、お彼岸と呼ばれる時期があります。春分の日(3月21日頃)と秋分の日(9月23日頃)を中日とした前後3日、計7日間をいい、その初日を『彼岸の入り』最終日を『彼岸の明け』と呼びます。一般的にこの時期には、先祖の供養が行われます。ではなぜこの時期に先祖の供養が行われるのでしょうか。

春分と秋分は二十四節気の基準となる日で、この日、太陽は真東から昇り、真西に沈みます。仏教では、先祖のいる極楽は西にあると考えられていたため、太陽が真西に沈むこの日が、もつとも極楽に通じやすいとされ、遙か彼方の極楽浄土に思いをはせたのが彼岸の始まりといわれています。

現在では『春分の日』『自然をたたえ、生物をいつくしむ』日、『秋分の日』『祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ』日として(祝日法による)、国民の祝日の一つとなっています。

このお彼岸の起源は、平安時代までさかのぼるとい説があります。

この時代、貴族の摂関政治が衰え、それに代わって武士が台頭しつつある動乱期で、治安の乱れも激しいものでした。そのため

に不安を感じた民衆の間で、1052年に仏の教えが消滅してしまう『という』末法思想』が広まり、信者たちは、現世で報われないなら、せめて死んでから極楽浄土へいけるように『と仏様にすがろうになりました。初めは浄土宗の人たちだけの信仰でしたが、あまりにも戦乱が長く続いたため、一般の人にも広がっていききました。

## ◆修行の日 到彼岸◆

もともと彼岸とは、『到彼岸』という自らが川を渡って、理想の世界に到達するという行為をあらわしたもので、春分と秋分の年2回、前後7日間ずつ日常の苦しい生活を脱し、楽しい精神生活を送るために、佛法を聞き、行いを正しくする日とされていました。

この間、六波羅蜜(布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧)の6つの修行を1日毎に行い、これを完結した人が7日目に理想の世界、つまり川の向こう岸にある仏様の世界に行くことができると信じられていたのです。

その修行が、次第に浄土をしのぶ日、あの世にいる祖先をしのぶ日として、人々の生活に定着していったようです。これは、

仏教の教えにある、何でもほどほどが良いという『中道』という考え方と、昼夜の長さが同じになり、暑くも寒くもない、ほどほどの季節にある春分と秋分の日がうまく合致してできたともいわれてい

ます。その他にも、古来より伝わる太陽信仰の系列から、『日願』であるという説もあります。地方によつては、『日天願』と呼ぶこともあるようです。

## ◆彼岸と此岸の世とこの世◆

『彼岸』という言葉は、読んで字の如く「かなたのきし」、川の対岸を意味します。

日本には、対岸が見えないほどの大きな川はありませんが、インドや中国には何百キロという川幅の大河がたくさんあります。そこで、先の見えない向こう岸には、亡くなった祖先が住む、理想の世界、悟りの世界、あの世があると考えられてきました。

逆に「こちらの岸」とされる『此岸』が『ん』は、迷いや悩みに満ちた、自分たちの生きる世界、この世を指した言葉です。

このように、現世と浄土との間に川があるという説は、中国の唐の時代、「観経疏散善義」において絵解きの述べられたものが日本にも伝わり、これが平安時代

に浄土教の普及とともに広まっていた。

ところが、大河のあるインドや中国では、古くから『彼岸』の習慣はなく、日本独自の文化です。大河のない我が国だけになぜ彼岸の行事があるのか。とても不思議ですね。

## ◆牡丹餅とお萩◆

お彼岸のお供え物といえば、ぼたもちとおはぎのどちらかを思い浮かべますか。

名前の違うこの二つですが、どちらもあんこをたっぷり使った和菓子で、作り方も味もよく似ています(一般的にぼたもちはこしあん、おはぎは粒あん)。では何が違うのでしょうか。

実はこの二つ、お供えする時期が違うだけで、基本的には同じものです。春のお彼岸(春分)には牡丹が咲くため『牡丹餅』。秋のお彼岸(秋分)には萩が咲くため、『お萩』と呼ばれるようになったそうです。最近では、どちらのお彼岸にもおはぎをお供えすることが多くなったようですが、季節を感じられる『牡丹餅』と『お萩』の名前は忘れずに覚えておきたいですね。



牡丹



萩

(文・土岐倫子)

# 「花の歳時記」(17) 春を呼ぶ鶏足領周辺のスイセン

2月も下旬になりますと冬の寒さも次第に薄らぎ、春を告げる草花が次々と咲き始めます。その一つがスイセンです。中津万象園では園中央部南方の鶏足領やその周辺の芝生内には、所どころで黄色いラッパスイセンの花が咲き早春の風に揺れています。

このスイセンの原産地やその沿革については定かではありませんが、現在南ヨーロッパ(地中海沿岸)のピレネー地方にさまざまな種類のスイセンが野生化していることから、おそらく南ヨーロッパが原産地でシルクロードを経て中国に伝来し、海岸地方で野生化したスイセンの球根が海流によって日本海沿岸に漂着し、日本各地へ広まったであろうと考えられています。

<中津万象園・丸亀美術館へのアクセス>  
瀬戸中央道路 坂出北ICより約8.5km/約15分  
坂出ICより約14km/約20分  
高速道路善通寺ICより約5km 約10分



## 【長岡 公 氏】

昭和2年10月 香川県丸亀市津森町に生まれる。  
昭和26年3月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業  
昭和26年4月以降 香川県公立高等学校教員として  
主基高等学校・飯山高等学校・  
笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、  
高松南高等学校・飯山高等学校教頭  
昭和63年3月 定年退職 香川西高等学校教頭  
現在 公益財団法人中津万象園保勝会 理事  
※主な著書に  
「讃岐の名園紀行」(栗林 玉藻編/中西謙編)がある。

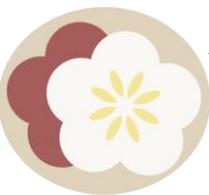
室町時代の国語辞典「下学集」には、この花の漢名を「水仙花」、和名を「雪中華」と記載されています。雪の中でも健気に咲くことから「雪中華」と名づけたことでしょう。

ところでギリシャ神話には、このスイセンについて次の要旨で紹介されています。「美少年ナルキッソスは水に映った自分の姿に惹かれて恋をし、その姿に恋い焦がれてその場を動かずついに衰弱して死亡し、翌年その跡に一輪の花が咲いた、それがスイセンの花であった」と。  
ギリシャ神話とともにシルクロードを旅し、中国から海流に乗って日本に漂着したスイセン。ロマンではありませんか。(長岡 公)

古来より季節を感じさせた「色」を知る。

## かさねの色 (17)

# 「梅」



表：白/裏：蘇芳  
着用時期は11月から2月まで。  
早春に仄かな香りを漂わせる白梅を色目に写したものの、表地が花の色、裏地が幹や枝の色を表わしている。

日本人の季節を感じる心、美しいと感じる色彩感覚。そういったものの結晶とも言える「重色目(かさねいろめ)」は、平安時代に生まれ、季節の移り変わりを表現する配色として併せ仕立ての着物などに用いられました。現代でもしつらえなどにいかして、平安の風雅を味わってみては…。

## 【編集後記】

このところ、お客様と共に、新規事業立ち上げの準備に取り組んでいました。へお客様のご要望、夢を叶えるために、外部の専門家と積極的にチームを組み、そのチームの【扇の要】としての役割を果たすというのが私の理想の姿ですが、今回の案件は、その試金石ともいえるもの。おかげで、素晴らしいプロフェッショナルの方々チームを組むことができましたのですが、自らがチームの【扇の要】となるには、その共通言語、知識があることが大前提です。でも、私にはその基礎が足りず、【扇の要】どころか、打ち合わせと並行して勉強しながら、必死で一步一步進むという体となってしまいました。ただ、その作業の楽しかったこと、毎晩のように電話、メール、集まってのやりとりを繰り返しながら、時には真剣なあまり熱くなつて夜中まで論争しながらも、自分自身、そしてプロジェクトの進化・成長が手応えとして感じられる、本当に幸せな時間だったので。結果、採択されたこのプロジェクト。「こういった案件を積み重ねることで、『物語のある建築』を沢山生み出すことができます。…それを実感した数カ月となりました。

\*\*\*\*\*御意見、御感想をお聞かせ下さい\*\*\*\*\*



建設業許可:香川県知事許可(特23)第189号  
一級建築士事務所:香川県知事登録 第416号  
宅地建物取引業免許:香川県知事登録(10)第1997号

## 富士建設株式会社

本社:〒769-1101  
三豊市詫間町詫間300番地1  
TEL0875-83-2588(0120-832589)  
FAX0875-83-5864  
http://www.fujikensetsu.jp  
mail y-manabe@fujikensetsu.jp (真鍋有紀子)

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

- 営業所:高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所
- 中津万象園・丸亀美術館/丸亀プラザホテル/味処 懐風亭